



医師の診察と診断について

～見ていないようで、実は診ています～



医療法人社団 秀皓会 理事長 船本 全信

今年は暖冬と言われていましたが、お正月に大地震に見舞われた石川県では、やはり寒く雪深い状況です。避難所生活では、精神的にも身体的にも過剰なストレス条件下であり、色々と体調に影響が及びますので、一刻も早い災害復旧が望まれます。政府・自衛隊・インフラ整備の方々の頑張りには本当に頭が下がりますが、救助者ご自身の体調管理にも気を付けて頑張ってくださいと思います。

さて今回は、「医師の診察と診断」についてお話してみたいと思います。「診断」は、患者の訴える症状や徴候がどの疾患や病態で説明できるかを判断する過程です。診断に必要な「情報」は、通常、患者の病歴と身体所見の診察・レントゲン等の検査から収集されます。「診察」は医師が患者から、問診（話を聞く）・視診（様子を観察）・聴診（音を聴く）・触診（患部を触って確認）して「情報」を得ることです。

この中で、最も重要なのは何だと思いませんか？ それは、「問診」です。ある報告では、新規患者の診断において、「問診」だけで約80%の割合で正確な診断に至ったとされています。

初診時には、問診票の記入が必要ですが、この情報は治療・検査の方向性の決定や投薬の選択（副作用の有無など）に大きな影響を与えます。その際に大切なのは、「いつ（食事・運動・姿勢・季節・時間との関連）」「どこが」「どのように（ズキズキ・チクチクとか）」「どれくらい（程度・持続時間）」といった点が重要です。内科的疾患の特徴ですが、「再現性（何かをすれば必ず）」や「増悪傾向（だんだん酷くなる）」「我慢できない非常に辛い痛みや苦しさ」といった特徴があります。「そう言えば、～なこともある」といった症状は「～でないこともある」と同義ですので余り心配する必要はないかと思います。

次いで、重要なのは「視診」です。私は、待合で座っている患者の「表情・顔色・目線」や「姿勢（肩で息している、傾いている）」、そして診察室に入って来られる際の「足どり」を見ています。大学病院に多いパソコンに向かってのドクターも、実は目の端で、こういった雰囲気・しぐさを追っています。座っている姿勢がおかしい、足の運びが悪い場合、何らかの疾患があると疑います。診察室では、「手足の動き」「表情の変化」「白目の黄染（黄疸）や顔の腫れの有無」「皮膚の状態」「頸部の腫れや静脈の怒張の有無」「爪の状態」等をさりげなく見ています。手足の震えや表情に歪さがあれば、脳神経系の疾患の可能性を考え、乾燥肌や水疱の出現からアトピーや帯状疱疹を疑ったりします。また、頸静脈が浮き出て見え、呼吸の際にも怒張したままだと心不全を疑います。喉元が腫れていると甲状腺疾患を疑います。爪がスプーンみたいに反っていると慢性貧血が、「太鼓のバチ」のように丸いと肝硬変や呼吸器疾患等が疑われます。手足の腫れや変形・浮腫みからもリウマチや変形性関節症・腎不全などの診断を想定していきます。

（裏面へ続く→）

そして、「聴診」です。聴診器を使わなくても、「息継ぎが荒い」「ゼーゼー、ヒューヒュー、ゴロゴロといった呼吸音」「鼻水や鼻づまりの音」等は、会話の合間にチェックしています。それだけで、気管支喘息や鼻炎の診断がつかますし、また息が荒いのは心不全・呼吸不全を除外するために次のステップに進みます。聴診器を使えば、より呼吸音や心音等が鮮明に聴取されます。ですが、残念ながら、聴診だけでは軽微な肺炎や胸水の存在を診断することはできません。そのために、胸部レントゲン等の検査が必要となってきます。

最後に、「触診」です。触診では、手先の感覚が大切で、例えば腫瘍に触れる場合、表面の滑らかさや硬さ、サイズ感等を拾っています。他にも、日本人女性の約10%(!)は何らかの甲状腺疾患を有していることが報告されていますが、当院でも触診で「軽度腫大」のレベルで早期診断に至った症例を数多く経験し、実際はもっと疾患割合は高いのではないかと考えています。

こういった「診察」を経て、より診断精度を上げるため必要だと思われる「検査」を行った結果のもと、投薬がなされるというのが一般的なストーリーです。私の意識では、この「問診」「視診」「聴診器を使わない聴診」だけで、かなりの「診断」は可能だと感じています。ただ、それだけでは不十分な場合やより精度を上げるため、「聴診器を使った聴診」「触診」「検査」が必要となってきます。特に、癌の診断には、エコーやCT・内視鏡に加え細胞・組織診断といった「検査」が不可欠ですよね。

(注意：いわゆる生活習慣病としての高血圧や糖尿病・脂質異常症は、判定基準が、血圧測定や採血といった「検査」結果が主たる「診断」方法であり治療効果の基準になっています。)

正しい「診断」には、適切な「診察」が必要です。適切な「診察」のうち、「問診」には患者の協力が必要です。自覚症状や気になる点を、前述したようなポイントに注意しながら、お話しして下さるとスムーズな「診断」に繋がりますので、皆様ご協力の程お願い致します。

☆保険証提示のお願い☆

○来院時には、診察券をお持ち下さい。

○毎月初めての受診時には、保険証、受給者証等を確認させて頂いております。お手数ですが、来院時の際は受付にご提示頂きますようお願い致します。

○マイナンバーカードによる保険証提示には顔認証が必要になりますので
受付スタッフにお声がけください。

なお、以下の場合は月の途中でもご提示下さい。

- ・氏名の変更 ・扶養者の変更 ・転居 ・75歳の誕生日を迎えられた時
- ・負担割合が変更になった時 ・就職や退職など、新しく保険証が変わった時

※期限切れや、提示のない場合は、提示していただくまでの間、自費扱いとなります。



◆ふなもとクリニック 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 7-13 tel.0798-81-1192

◆ 居宅介護支援事業所 **ふくろう** 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 6-20 1F デイ 3F 居宅
デイサービスセンター tel.0798-40-9500(居宅) 0798-49-7670(デイ)